香川大学医学部附属病院
医療安全に関するメッセージ

病院の中で行われる手術や注射、検査などの診療行為の多くは、身体にとって負担となります。通常、その負担よりも診療行為による治療効果等の「利益」の方が大きいので、病院では診療行為が行われます。

しかし、現在も医療とは本質的に不確実なものであり、「過失」などがなくても重大な合併症や偶発症が起こります。加齢に伴う、またはひそかに進行していた病気が診療行為の前後、途中に発症する可能性もあります。その場合は、もちろん治療に最善を尽くしますが、稀には死に至るような重篤な事態もあります。

重要な合併症で予想できるものについては充分に説明しますが、極めて稀な合併症や予想のつかない場合もあり、全ての可能性を説明することはできません。このような医療の不確実性は、医療の進歩により低減されていますが、人間の生命の複雑性、個人の多様性に由来し、現在でも無くすることはできません。

今後皆様には、診療行為を行うにあたり、同意書などを求めることがあると思います。その場合には、こうした不確実なことが医療には存在することをご承知頂いた上で同意書に署名して下さい。

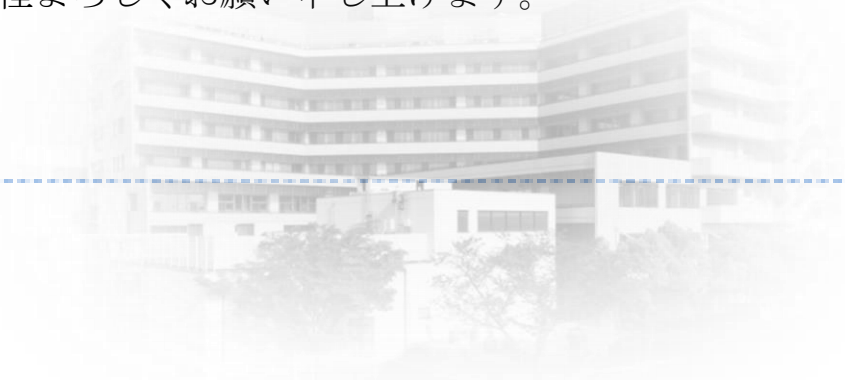
疑問があるときには、納得できるまで質問して下さい。納得できない場合には、無理に結論を出さずに、他の医師の意見（セカンド・オピニオン）をお聞きになるようお勧めします。他の医師の意見を求めることで不利な扱いを受けることはありません。

また、このような合併症や偶発症の治療に関しての診療費も保険診療で対応いたします。

何かお困りのことが生じましたら『総合地域医療連携センター』に遠慮なくご相談下さい。

今後とも皆様とともに協働して質の高い医療を実践していく所存です。

ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



患者さんと医療者の
パートナーシップ

検査・手術・注射等の実施の際には自分の名前と生年月日をお伝えください。

病院には良く似た名前の方がいらっしゃいます。点滴や検査前、手術前等にはフルネーム（氏名）と生年月日を伝え、ネームバンドをお見せください。

廊下はすべります。必ず履きなれた靴を履きましょう。

スリッパは院内では滑りやすく、けがのもとになります。入院中は履きなれた踵のある靴ですごしましょう。

疑問や心配は医療スタッフにお気軽にご相談ください。

不安や悩みを1人で抱え込む必要はありません。家族や友人、病院の職員などに気持ちを伝え、一緒に治療に取り組んでいきましょう。

相談窓口（総合地域医療連携センター）

検査の結果は必ず確認しましょう。

検査を受けられた場合は必ず医師に結果を確認しましょう。わからないことがあればその場で確認を行い、今後の治療方針について一緒に計画を立てましょう。

服用している薬について学びましょう。

お薬にはたくさんの種類や飲み方があります。初めてのお薬を手にした時や、何か疑問に思った時は、服薬の前に確認しましょう。